

日本を見つめ直し、楽しく生活、仕事しましょ、シリーズ。

江戸幕府は、豊臣秀吉の中央集権的な独裁色の強い政権を嫌った大名で主に形成されていたため、各大名の自治権を優先させた連邦制のような形で始まり、これが幕末まで続きました。他の中央集権国と異なり、各大名の自治権が強かったため、地元への愛着と隣の大名との競争がおこり、各藩独自の殖産進行が進み、独自の藩風が形成され、地方色豊かな国の形をつくることになりました。現在の日本に地方色豊かな祭りが多く残されている大きな理由です。 ※当時の中央集権国の多くは、行政官が数年ごとに派遣される形でした。

しかし、独立国家の集まりのような国の形としたため、幕府は各藩への徴税権を持ちませんでした。結果、江戸徳川400万石の資産で全国3000万石の面倒をみるという根本的な制度的欠陥があり、慢性的な財政難は幕末の崩壊の一つの原因となりました。

幕府開設当初は全国金銀産出地を抑えたため潤沢な資産がありましたが、3代家光の時にすでに採掘は枯渇し、4代家綱の時には金銀の資産はほとんど無くなっていました。

また、多くの大名も兵農分離が秀吉により徹底されたことより、多くの家臣を自前で雇用する仕組みとなり、参勤交代の費用、江戸屋敷の維持費用、幕府からの普請費用、自然災害復興の費用、プライドによる贅沢費用等、大名も慢性的な財政難にありました。

これに対して、一般町民は、参勤交代によって宿場町に落ちるお金や、治水事業等の公共工事による賃金、国が平和になったため爆発的な流通業、製造業の発達、投資による経済の発展により豊かになり、特に江戸の町民の消費は大名をしのぐようになり、衣食住のレベルが飛躍的に高まりました。

また、農民も、年貢の基準となる検地が、秀吉の時以降おこなわれなかったため、新田を開発すればそのまま年貢の発生しない利益となったため、新田の開発が進み、農民も豊かになり、農作物の増加により人口が飛躍的にふえることになりました。 ※人口1600年1200万→1750年3000万(鬼頭宏、Biraben)

この様な、民間の消費と投資が経済を主導する初期資本主義が、世界に先駆けて日本で発生していたこととなります。また、変動相場制、手形の流通、先物取引等、当時の世界でも最先端の経済活動がおこなわれていました。

にもかかわらず幕藩体制は、家柄による硬直的な人材登用による弊害が目立つようになり、民間の経済の発展に対応できなくなり、幕末の民間のうっ積した力は、明治維新後に爆発的な西洋化へ向かうこととなります



為替手形

「彼らは皆、よく肥え、身なりもよく、幸福そうである。一見したところ、富者も貧者もない。

これが恐らく市民の本当の幸福の姿というものだろう。」

幕末の初代駐日公使タウンゼント・ハリス「日本滞在記」